

GREEN ニュース

環境アドバイザー連絡協議会

第 12 期 代表 西村 豊

令和 4 年 10 月発行

創刊 平成 5 年 7 月 16 日



秋の七草のハギ

古代から日本人に親しまれてきたハギは養分の少ない荒地でも育つパイオニア植物としても知られています。近年は野山で見ることが少なくなったが大切に見守りたい植物です。 広報委員 井上金治

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2022 年 10 月 20 日現在）

第 12 期(登録期間:2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日)の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計 317 名です。自然環境部会 143 名 温暖化・エネルギー部会 109 名、ごみ部会 88 名、広報委員会 31 名が登録し活動されています。

群馬県環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

目次

- P2 環境アドバイザーに期待すること
- P3 環境アドバイザーの活動について
自然環境部会報告
- P4 温暖化エネルギー部会報告
- P5 ごみ部会報告
- P6 ベル型コンポスター使用の一工夫
- P7 桐生川の清掃について、コロナ禍、3 年
ぶりに「環境フォーラム沼田」開催
- P8 環境学習サポーターの活動

環境アドバイザーに期待すること

環境政策課 小野里 明

1992年に始まった環境アドバイザー制度も、今期で12期目となりました。みなさまには、環境アドバイザーとして地域の環境活動を牽引していただき、また、県の事業にもご協力くださり、大変ありがとうございます。

昨年開催された国連気候変動枠組み条約第26回締約国会議(COP26)では、産業革命前からの気温上昇を1.5℃に抑えることが事実上の新目標とされました。ただし、この1.5℃の目標を達成するためには、今後、社会システムの大胆な変革が必要となります。

県では、2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」で「温室効果ガス排出量ゼロ」を掲げています。さらに、群馬県地球温暖化対策実行計画では、2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で50%削減するという高い目標を掲げ、突破に向け、全力で取り組んでおります。また、昨年策定した「群馬県環境基本計画2021-2030」では、環境問題の解決だけを考えるのではなく、ほかの社会的課題や経済の問題も併せて解決していくというSDGsの考え方を踏まえたものとなりました。

環境アドバイザーの活動におかれましても、地域の環境問題に向き合うとき、その解決によってほかの地域課題も解決できるよう、多様な主体との協働の取組を目指していただきたいと思います。

私たちに残された時間はわずかです。今こそ、環境について真剣に考え、迅速に対応しなければ、私たちの生存基盤や動植物の生態系が失われる危機的な状況にあるといっても過言ではありません。

今期、環境アドバイザーに就任された方には次のことを期待しています。

- ① 自分が学んだことは、必ず他人（できれば仲間ではない県民）に伝えましょう。
- ② 自分が環境アドバイザーであることを広く知ってもらいましょう。
- ③ 環境アドバイザーとして自分が提供できる情報の種類を提示しましょう。自分が対応できない分野の専門を紹介できるようにしましょう。

環境アドバイザーを複数期続けている方には、次のことを期待しています。

- ① 環境アドバイザーの活動で得た専門知識を情報発信しましょう。
新聞コラム欄への投稿や、テレビ・ラジオ・新聞への取材申込みや、市町村環境担当者との連携による広報誌記事作成、公民館担当者との連携による公民館活動や広報誌記事掲載があります。できれば、ホームページやブログ、ツイッターといった情報発信ツールも活用してください。
- ② 多様な主体との連携・協働をしましょう。
希少動植物の保護や外来生物等の駆除に必要なクラウドファンディングやボランティアの募集、企業やスポーツチーム、著名人との連携・協働も期待しています。既存の団体との連携・協働も大事ですが、活動の幅を広げるために多様な主体との連携・協働も期待しています。
小中学校や高校、大学でも環境に関する授業は行われています。市町村も限られた人材で環境問題に取り組んでいます。専門的な知識を持つ環境アドバイザーに声はかかっていますか。すでに講師として、県市町村の委員として活躍されている環境アドバイザーは誇らしく感じます。
- ③ 環境アドバイザーの活動で得た専門知識を県民のために使ってください。
環境アドバイザーの専門的な知識が環境活動をしている様々な人たちの役に立ち、県民の幸せにつながる日が来ることを願っています。環境アドバイザーは一人ではありません。知識と力を合わせ、自ら主体的に環境活動が実践できるよう、あらゆる主体と連携・協働できるよう願っています。これからも環境白書、出前講座、環境サポートセンターを活用してください。

環境アドバイザーの活動について

代表 西村 豊

2021 年 3 月に発刊された群馬県環境基本計画 2021-2030 ではアドバイザーの皆様の活動に期待されている項目が多くあります。群馬県では 2050 年に向け「ぐんま 5 つのゼロ」を宣言し、9 つの市町村でも宣言しています。また 2050 年に向けた「ぐんま 5 つのゼロ宣言」実現条例も本年公布されました。5 つのゼロ宣言の中でも宣言 2, 4, 5 は環境アドバイザーが取り組み易い項目で積極的に取り組みましょう。

宣言 2 温室効果ガス排出量「ゼロ」

宣言 4 プラスティックごみ「ゼロ」

宣言 5 食品ロス「ゼロ」

先日の幹事会やプラスチックごみの勉強会でも群馬県環境政策課の小野里補佐が、勉強するだけでは無く県民にアドバイスをすることが必要とおっしゃっていました。皆さんの活動を振り返って見ていかがでしょうか？まず身近な人に小さなことでもアドバイスしてみましょう。

環境アドバイザー連絡協議会では活発に活動している部会や地域もありますが、ここ数年は新型コロナウイルスの影響もあり活動が少し停滞気味になっているように感じています。

今号では小野里補佐に「環境アドバイザーに期待すること」を執筆して頂きました。この中にはアドバイザーへの期待や活動する内容について書かれていますので良く読んで頂き今後の活動に生かして頂きたいと考えています。

地域での活動は地元の行政との連携も重要です。環境アドバイザーは県内全域で登録されていますので地元の市町村や住民と連携して活動し期待されるアドバイザーになりましょう。

.....

自然環境部会のこれから

自然環境部会 田中 和夫

<高山村共有林の作業>

7 月 10 日（日）他の行事と重なったためか参加者は 6 名。林の中の下草刈りを重点に行いかなりすっきりしました。

8 月 14 日（日）参加者 5 名、意外と暑くならず助かりました。草刈りと伸び始めた「オオブタクサ」除去

9 月 11 日（日）参加者 7 名 前回刈り残した場所と葛を処理しました。

◎11 月 13 日（日）次回 9 時半からで予定しています。

自然環境部会発足当時の事情は不勉強で分かりませんが、現状の活動は以下の通りです。

1. 基本隔月開催の「定例会議」は「活動報告」と「情報交換：各地区の活動」です。
2. 「行動するアドバイザー」を実現する一環としての「高山村共有林の手入れ」
3. その他

ですが、実態は 1.2.のみがほとんどです。過去に観察会や勉強会などを開いたこともありますが期待したほどの人数が集まらなかったと記憶しています。

「生態系の保全」、「生物多様性の維持」などが叫ばれている現在、環境アドバイザー特に自然環境部会としてはやるべき仕事があるのでは？と思います。部会員だけでなく、アドバイザー全員の皆様をお願いします。自然環境部会は何をするべき、あるいは目指すべきなのでしょう？アドバイザー皆様のアイデアを募集します。

温暖化・エネルギー部会の地域環境学習推進事業と ワークショップの開催報告について

温暖化・エネルギー部会 富岡 賢洋

温暖化・エネルギー部会では、9月11日（日）に共愛学園前橋国際大学短期大学部において、地域環境学習推進事業の講演会と温暖化対策ワークショップを開催しました。

【午前の部(10時～12時15分)】地域環境学習推進事業講演会

「ぐんま5つのゼロ宣言条例と群馬の可能性」というテーマで講演会を行い、会場で30名、オンラインで26名の方に参加いただきました。

講演1は、群馬弁護士会公害対策・環境保全委員会の平井優一弁護士より、「ぐんま5つのゼロ宣言条例を読み解く」と題して、宣言が目指す温室効果ガスの排出量削減と再生可能エネルギー設備の導入について解説していただきました。この中で「5つのゼロ宣言」は、自治体の自主条例であることや、法律、政令、省令、条例の上下関係についても説明していただきました。

講演2は、信州大学人文学部准教授の茅野恒秀先生より、「再エネと地域との共生脱炭素社会の地域戦力を考える」というテーマで、「長野県ゼロカーボン戦略」の紹介や、ゼロカーボンを目指していくためには地域の課題解決と合わせた取り組みが必要なこと、さらに脱炭素社会づくりは持続可能なまちづくりでもあるということを力説されました。



【午後の部(13時～16時40分)】温暖化対策ワークショップ

「群馬でできる効果的な温暖化対策ロードマップ作り」というテーマでワークショップを実施し、26名の方が参加されました。講師は、国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門持続可能システム評価研究グループ主任研究員の歌川学先生と、立教大学社会学部特定課題研究員／ESD 研究所特任研究員の高橋敬子先生に務めていただきました。参加者は、農業班と森林班それぞれ2班に分かれ、高橋先生が研究されているワークショップの手法によりグループワークが進められました。

グループワークは、段階1の批評で問題を分析、段階2のファンタジーで構想の立案、段階3の現実化でビジョンやアイデアの実現検討、最後はまとめて2050年までのロードマップを考え、発表するというものでした。途中、歌川先生より検討に必要な資料が提示され、それも参考にしました。参加された方々は模造紙や付箋を活用し、アイデアを出し合い独創的なロードマップを作成していました。



この1日の講演会やワークショップをとおして、SDGsやESDの考え方にも触れることができ、環境アドバイザーとしての活動にも役立つ知識が得られました。温暖化・エネルギー部会では、今後も環境問題に縁がなかった方々にも参加してもらえるようなイベントを考えていく予定です。

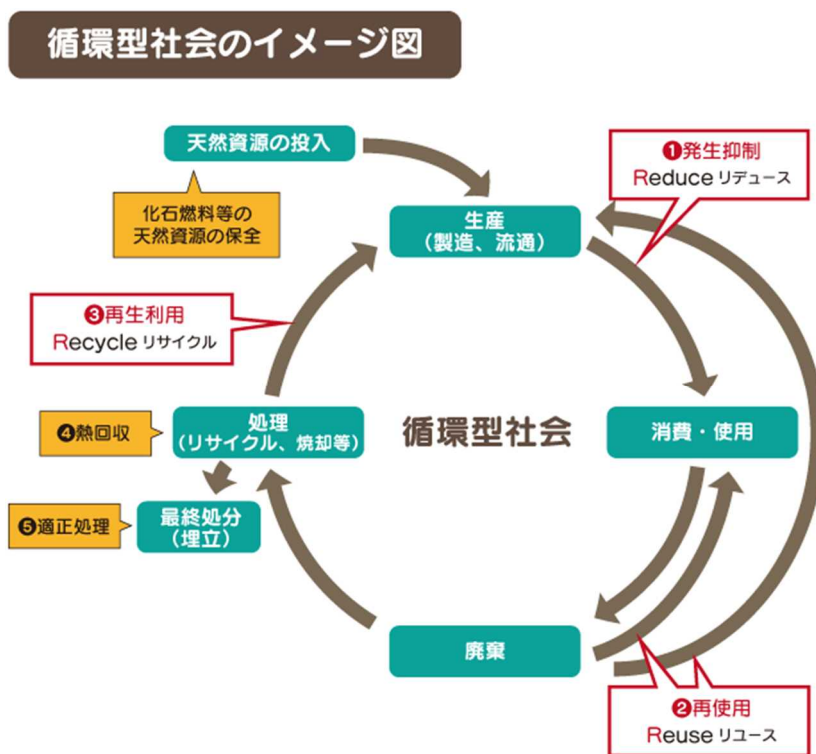
基本の3R

ごみ部会 山田 一朗

ご承知のように 3R とは、リデュース・リユース・リサイクルの三つの英単語頭文字からなる、循環型社会をつくるためのキーワードであり、ごみ減量のキーワードでもあります。この 3R にリフューズ（断る レジ袋などを）を加えると 4R となります。更にリスペクト（大切に扱う）を加えたものが、群馬県の「家庭ごみ減量に向けた 5R」と言うキーワードとなっています。キーワードとしては、他にもリペア・リミックス・リファイン・リシンク・レンタル・リターン・リターナブル・リフォーム・リコンバート・リバイ・リジェネレーション・リクリエート・リフレッシュ・リアクト・レストアなどがあります。3R に 4 つ加えて 7R や、7 つ加えて 10R、15 加えて 18R などがあるようですが、詳細は割愛させていただきます。18R は多すぎて覚えられず、キーワードとしては不向きと思われます。5R にしても他のキーワードと重なることもあるのです。例えばレジ袋の辞退はリフューズになりますが、リデュースにもなります。またビール瓶などのリターナル瓶はリスペクトであり、リユースでもあります。

東京都江東区など多くの自治体で実施している 5R は、リスペクトの代わりにリペア（修理して使う）が加わります。別の地域ではリターンを加える所もあるそうです。このように 4R まではほぼ一緒ですが、5R 以上になると地域や自治体によって採用するキーワードが異なるのです。環境の 5R という同じ言葉なのに、地域によって中身が違うのでは紛らわしくないでしょうか。5R の良いところは、単に 3R でなく、あえて 2R を加えて 5R に前進させたいと言う積極的な精神だと思います。リフューズはレジ袋など不要なものを断ることでありますが、何かにつけ、はっきりした態度をとることは、私を含め日本人の苦手とするところかも知れません。またリスペクトは「もったいない」や物を大事にする心ですが、現代の日本人が忘れさってしまったものかも知れません。そう考えるとリフューズもリスペクトも重要な捨てがたいキーワードです。

それでもなお、ごみ減量のキーワードとしてはシンプルで全国一律が良いと私は思います。まず 3R を基本として位置づけること、今より更に 3R の認知度を上げることが重要で、その上で追加するなり、詳しく説明することも必要になるのではないのでしょうか。



出典：群馬県環境情報ホームページ「ECO ぐんま」より

生ごみ処理容器、ベル型コンポスター使用の一工夫

広報委員会 井上 金治

ベル型コンポスターは土に埋めるタイプの生ごみ処理容器です。このコンポスターは大変有効で、2人暮らしの我が家ではベル型コンポスターを使用して月 40kg 以上の生ごみを処理しています。

驚異的な生ごみ処理能力をもつコンポスターですが、悪臭や虫の発生が問題です。特に、悪臭は生ごみが嫌気性発酵をしているためで、場合によってはメタンなどの温室効果ガスも発生させてしまいます。

コンポスターの嫌気性発酵は、生ごみに含まれる大量の水分が通気を悪くし、嫌気性細菌の繁殖が優位になるためと考えられます。コンポスターの通気を良くするためには、生ごみを乾燥させて投入することや、時々落ち葉や枯草などを投入する方法が有効です。私はより簡便な対策として生ごみを投入する前にコンポスターの底に枯れ枝などを敷き詰めています(写真)。この方法は通気を良くし、生ごみから出た水分の除去に効果があるようで、悪臭の発生は大幅に改善することができます。なお、ベル型コンポスターがゴミで一杯になったら土で覆いしばらく熟成させる必要があります。このためコンポスターは2基用意すると便利です。

皆様もコンポスターの使用方法について、工夫されていることがありましたらご提案ください。



ベル型コンポスターの底に枯れ枝を敷いた様子



2基のコンポスターを使用している様子。ゴミで一杯になったコンポスターはそのまま熟成させ、その間は別のコンポスターに生ごみを投入する。

桐生川の清掃を通して

桐生市 大野 貴嗣（群馬大学4年）

現在、毎月1回、土曜日の朝に群馬大学桐生キャンパスの近くを流れている桐生川のゴミ拾いが行われています。私は環境系について勉強しており、環境保護という点で関心があったため約半年前からこの活動に学生ボランティアとして参加しています。

集まるゴミの量は、私が始めたとき(半年前)は45Lのゴミ袋1.5袋分程度で種類としては主に空き缶やペットボトル、タバコなどです。しかし、最近では清掃している姿を見せけている効果か、ゴミ袋1袋にも満たない程度の量になっており、徐々に減ってきていると感じています。また、学生ボランティアの中には留学生や自分とは異なる専攻の生徒が多く、清掃時の会話を通じて新たな知見を得ることもできます。私はこの活動を通して継続することの重要性と多くの人と関わることの楽しさを今まで以上に知ることができました。



最近ではより多くの人にこの活動を知ってもらいたいと考え、群馬県の環境アドバイザーに登録しました。今後は今まで以上に多くの人に関心を持ってもらえるよう清掃活動に邁進していきたいと思っています。

.....

コロナ禍、3年ぶりに「環境フォーラムぬまた」開催

沼田市 角田 和男

6月の環境月間に因み6月26日（日）沼田（新庁舎）1階防災広場ミッテ&多目的スペースにおいて、15回目となる『環境フォーラムぬまた』（主催：沼田市、主管：ぬまた環境ネット）を開催しました。

6月に入り新型コロナウイルスの新規感染者数は激減、かつ3年ぶりの開催とあって満を持して多くの来場者で賑わいました。鈴木顧問並びに西村代表が遠路お越しになられ、各ブース出展者に話しかけておられました。



フォーラムでは、環境ネット加盟団体の活動紹介をはじめエコカー展示、バスの乗り方教室、キーワードラリー（196人参加）など、盛りだくさんの催しを用意いたしました。

今回、初めて環境省からVRシアターを借用し、気候変動による影響「5つのストーリー」を、VRゴーグルを装着して皆さまに視聴していただきました。

環境アドバイザーは、手作りのパネルを掲出し「節電の必要性」と「プラごみの削減」について取り組みを呼びかけました。また、COOL CHOICE 賛同者を118名（男性36名、女性82名）募ることができました。

午後1時30分から、お笑い芸人でごみ収集員のマシンガンズ滝沢秀一氏の講演会を開催しました。滝沢講師は満員の聴衆者に対し、「ごみは嘘をつかない」と自らのごみ収集体験談を熱く語りかけると、皆さんうなずいて聞き入っていました。



終わりに、滝沢講師は3Rにもう一つのR、Respect・リスペクトを加える。つまり、ごみに対する思いやりを持つ、敬意を払うって気持ちがあれば、ごみ問題のいろんなことを解決できるような気がする。また、ある物で賄う気持ちがあれば食品ロスはなくせる。全てがSDGsの取り組みに関わっていると語気を強め締めくくりました。

環境学習サポーターの活動

玉村町 三木 恵子

環境アドバイザーの中で「動く環境教室」環境学習サポーターという活動があることをご存知でしょうか。依頼があった県内の小中学校（主に小学校）に行き、環境学習授業を行います。

テーマは●家庭から出る水の汚れを調べてみよう

- 川や池の水質を調べてみよう
- ごみは大切な資源
- リサイクルについて考えよう
- 省エネ電球から地球温暖化について調べてみよう
- 発電から地球温暖化を考えよう
- SDG s ってなに？（令和4年9月より実施）



（SDG s カルタを使った授業風景）

エコムーブ号が県庁から実験道具を運んできます。学校が選んだ2つのテーマの授業を行います。私たちサポーターの話を聞いて、子供たちは班に分かれて実験を行います。そして、授業のまとめを行い、『今日からできること』を発表してもらいます。外部の講師と実験があるので、子供たちには新鮮なようです。

実験をするという体験から、子供たちには記憶に残ります。昔、子供だった私も実験はワクワク楽しかったことは覚えています。この環境学習とは、生活の中で環境について身近に感じて、興味を持って考え、工夫し、研究していくタネをまいている活動だと思っています。ぜひ、環境学習サポーターとして活動してみませんか。私も始めは、いろいろ不安がありました。子どもたちと、どう接すればよいのか？講師なんてできるのか？でも大丈夫です！子供たちは、挨拶もしてくれますし、先生や私たちの話もよく聴いてくれます。（私の子どもの時より、ずっとしっかりしています。）子ども達の「楽しかった！」の言葉を聞くと嬉しくなります。授業内容は、指導要綱があり、手順も言葉がけも細かく記載されているので少し練習すれば、誰でもできます。未来を生きる子供たちにこそ知ってほしい環境学習です。

・・

編集後記

やっぱり、アドバイザーさんの生き生きとした表情や参加された方々の笑顔が間近で見られる対面での活動は良いですね。秋も深まり活動しやすい季節になりました。皆様からの活動報告楽しみにしております。

（広報委員会 酒井）



<写真>みなかみの山では、ススキが気持ちよさそうに風に揺れていました。

GNの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年4回発行します。各号のレイアウトは3月、6月、9月、12月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係 環境サポートセンター 角張

〒371-8570 前橋市大手町一丁目1番1号

TEL 027-226-2827 FAX 027-223-0154 E-mail: kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp